

令和3年度

オンライン講座

第2回

東山文化・I

2021
5月
No.02

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海



熱海の発展

江戸の湯治場、明治より人気の保養地熱海は、大正天皇の御用邸（明治21年竣工）に伴い、政財界、文人墨客があつまった。

第一次世界大戦、15年戦争、第二次世界大戦、関東大震災、熱海大火のなか、熱海は大きな飛躍を遂げ発展してきた。

「東山」は、熱海駅開業、丹那トンネルの開通によるところから、現代熱海づくりの先駆けの役割を果たす。

熱海の発展は交通の発展に伴っている。



熱海温泉誌

2017(平成29年) 4月10日 市制80周年 1889(明治22年)～

熱海発展の歴史 ～近代から現在まで～

昭和初期

昭和9年	丹那トンネル開通。東海道線の停車駅に
昭和12年	熱海町・多賀村合併。熱海市誕生。市制施行。
昭和13年	初代熱海市役所庁舎完成。
昭和20年	第二次世界大戦終戦。
昭和25年	熱海大火。

大正

大正7年	丹那トンネル工事着工。
大正12年	関東大震災。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。



第三の成長期 (「新生熱海」への歩み)		第二の成長期 (観光地としての発展)		第一の成長期 (保養地としての発展)	
平成29年	市制施行80周年。	平成28年	二代目の市庁舎開庁。	昭和18年	熱海―東京間、日本初の公衆電話開設。
平成28年	熱海駅舎が91年ぶりに全面改修。	昭和32年	熱海市と旧代町合併。現在の熱海市誕生。	昭和24年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
平成26年	新生熱海中学校開校。	昭和39年	東海道新幹線、新幹線熱海駅開業。	昭和29年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
平成12年	三日月の市庁舎開庁。	昭和61年	熱海サンビーチオープン。	昭和28年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
昭和61年	起雲閣オープン。	昭和33年	熱海サンビーチオープン。	昭和27年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
昭和39年	東海道新幹線、新幹線熱海駅開業。	昭和30年	熱海サンビーチオープン。	昭和26年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
昭和28年	熱海市と旧代町合併。現在の熱海市誕生。	昭和25年	熱海サンビーチオープン。	昭和25年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
昭和12年	熱海市誕生。市制施行。	昭和24年	熱海サンビーチオープン。	昭和24年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
昭和9年	丹那トンネル開通。東海道線の停車駅に。	昭和23年	熱海サンビーチオープン。	昭和23年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和22年	熱海サンビーチオープン。	昭和22年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和21年	熱海サンビーチオープン。	昭和21年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和20年	熱海サンビーチオープン。	昭和20年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和19年	熱海サンビーチオープン。	昭和19年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和18年	熱海サンビーチオープン。	昭和18年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和17年	熱海サンビーチオープン。	昭和17年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和16年	熱海サンビーチオープン。	昭和16年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和15年	熱海サンビーチオープン。	昭和15年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和14年	熱海サンビーチオープン。	昭和14年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和13年	熱海サンビーチオープン。	昭和13年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和12年	熱海サンビーチオープン。	昭和12年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和11年	熱海サンビーチオープン。	昭和11年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和10年	熱海サンビーチオープン。	昭和10年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和9年	熱海サンビーチオープン。	昭和9年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和8年	熱海サンビーチオープン。	昭和8年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和7年	熱海サンビーチオープン。	昭和7年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和6年	熱海サンビーチオープン。	昭和6年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和5年	熱海サンビーチオープン。	昭和5年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和4年	熱海サンビーチオープン。	昭和4年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和3年	熱海サンビーチオープン。	昭和3年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正12年	関東大震災。	昭和2年	熱海サンビーチオープン。	昭和2年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正14年	国鉄熱海線開通。熱海駅が現在地に。	昭和1年	熱海サンビーチオープン。	昭和1年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。
大正7年	丹那トンネル工事着工。	昭和0年	熱海サンビーチオープン。	昭和0年	熱海―小田原間、人事鉄道開通。



新幹線開通当時の熱海駅



初代お宮の松にぎわい



熱海市街 銀座



軽便鉄道



樋口ホテル 伊藤博文



新熱海駅舎・駅ビル



初代熱海市役所庁舎



開業時の熱海駅



熱海御用邸

広報あたま 2017

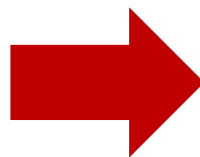
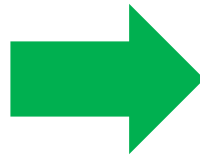
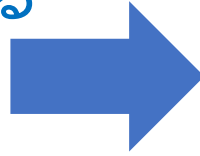


熱海市となったこの年は、旧日向別邸地下室が完成した翌年でした



講座構成 東山誕生・二つの背景

- 熱海の近代・現代史
- 熱海市誕生 泉都熱海市位を名乗る
- 温泉地区と駅前地区
- 温泉地区の発展
- 駅周辺地区の発展 熱海交通発展史
- 熱海駅の開業 大正14年
- 丹那トンネルの決定・工事
- 丹那トンネルの開通 殉職碑
- 丹那トンネルの二つの恩恵
- 東山・桃山の土地分譲（温泉付き）開発
- 東山・桃山の土地分譲（温泉付き）案内
- 東山分譲地と熱海地区分譲地
- 現在の熱海・東山全景
- 東山全景・東山トリオ
- 東山トリオ 時を繋ぎ、時を超えて佇む



東山誕生の背景 I

温泉地区 - 熱海 - 駅前地区



東山誕生の背景 II

熱海駅開業 - 交通 - 丹那トンネル

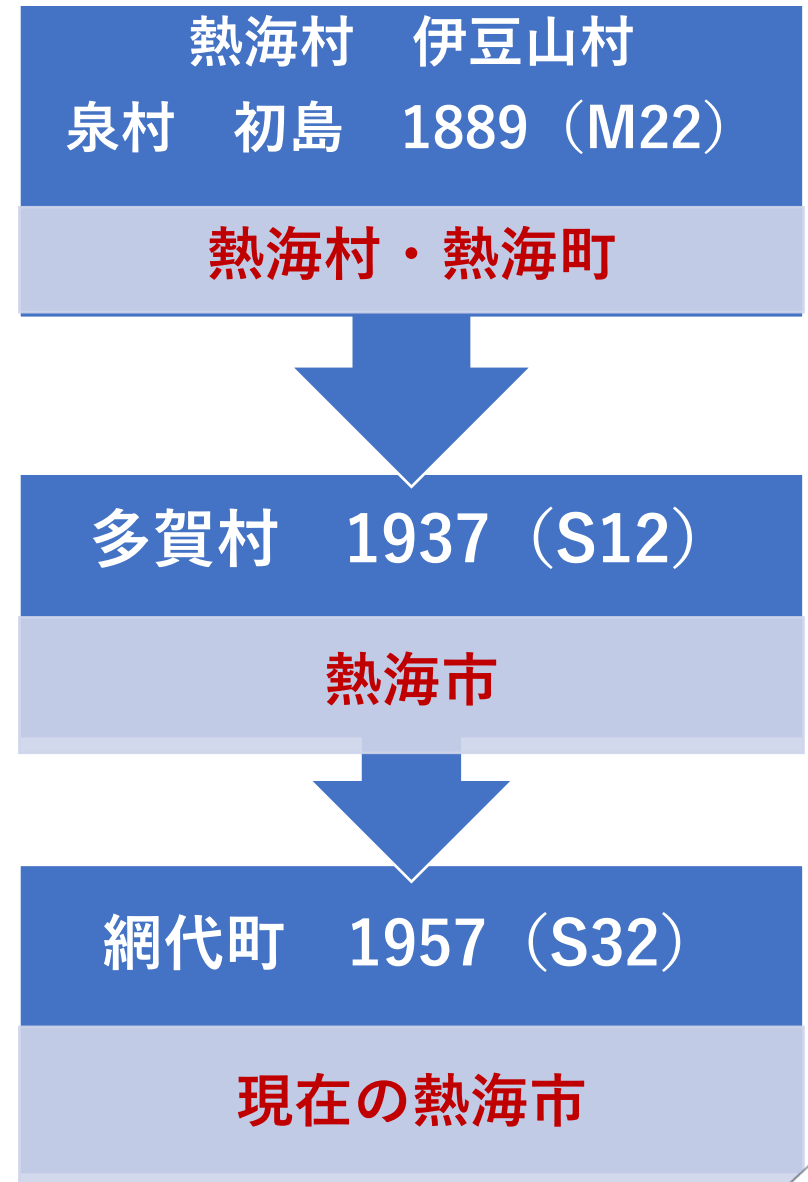


東山・桃山の誕生と今

東山トリオ
東山荘 - 旧日向別邸 - 海峯楼

熱海の近代・現代史 村から市へ

- 1889年(明治22年) 熱海村、伊豆山村、泉村、初島が合併して **賀茂郡熱海村** 発足
- 1891年(明治24年) 熱海村が町制施行して**熱海町**となる
- 1937年(昭和12年)4月10日 - 熱海町と多賀村が合併し**熱海市**が発足
- 1957年(昭和32年)4月1日 - 網代町を編入合併 **現・熱海市**。



熱海市誕生



熱海駅開業時に始まる駅周辺区の発展

温泉地区 銀座通り周辺の温泉地区
駅周辺区 熱海駅を中心とした地区



温泉地区の発展

江戸時代

(湯治場) (家康)



明治・大正

(保養地) (政財界)

諭瀛館と熱海梅園/熱海御用邸



昭和観光地

(新婚・社員旅行)



熱海の交通発展史

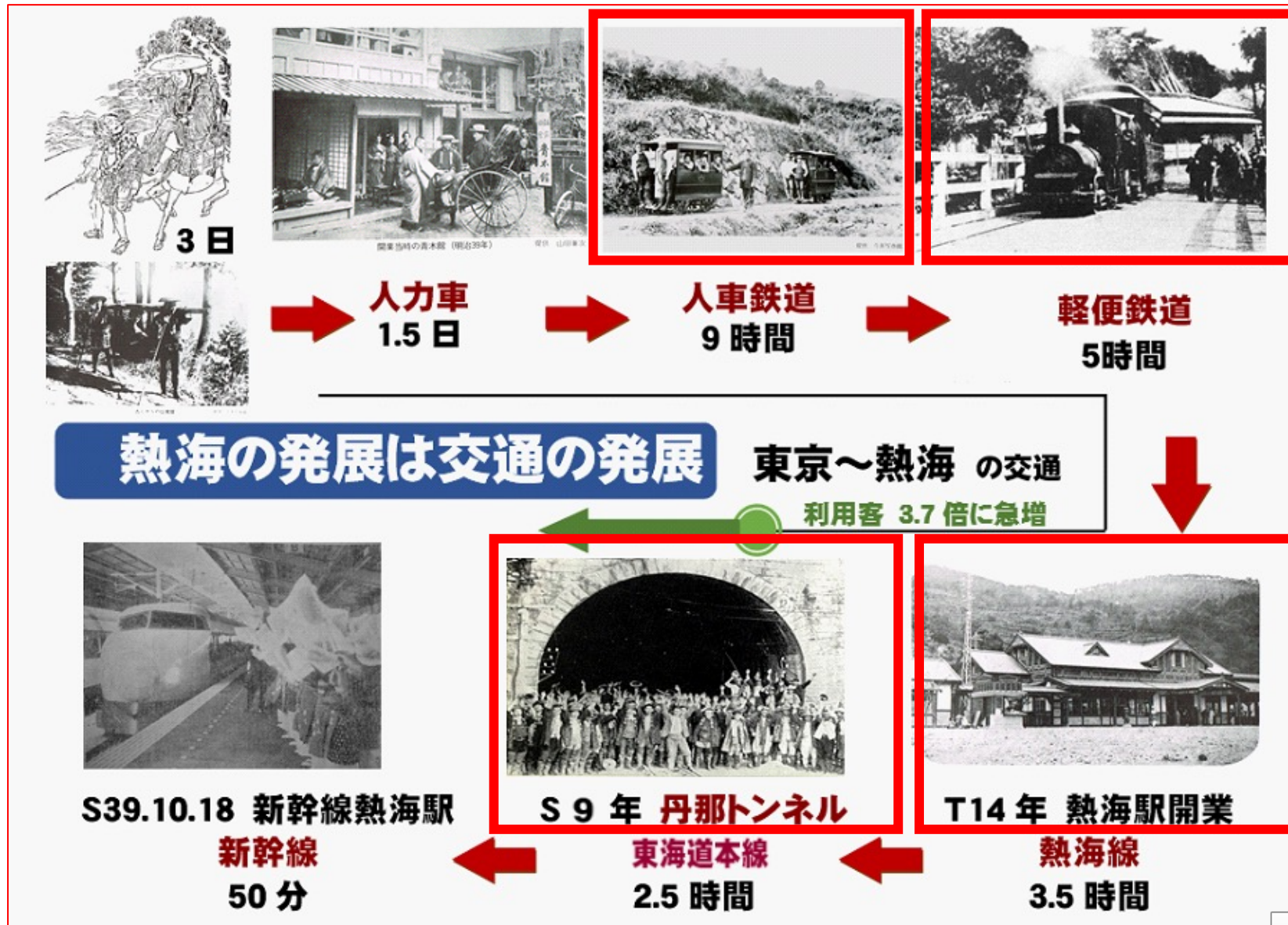
熱海は江戸時代より、全国の温泉地でも別格「行事」として人気の温泉地でした。

また明治には、政治家を文学者など多くの著名人の人気の場所となり発展を遂げてきたのですが、「交通の不便さ」が常に付きまってきました。

熱海の発展の歴史は、交通との闘いといっても過言ではありません。その為、人車鉄道、軽便鉄道など多くの手段をとってきました。

そうした中でも、大正から昭和初期にかけての「熱海駅開業」と丹那トンネルの開通は特別でした。

この講座では、熱海の交通を軸に街の発展、東山文化を見て参ります。



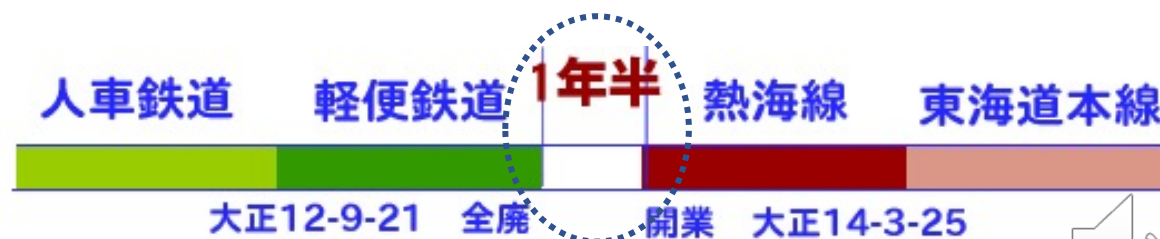
熱海駅開業 1925年 (大正14年) 3月



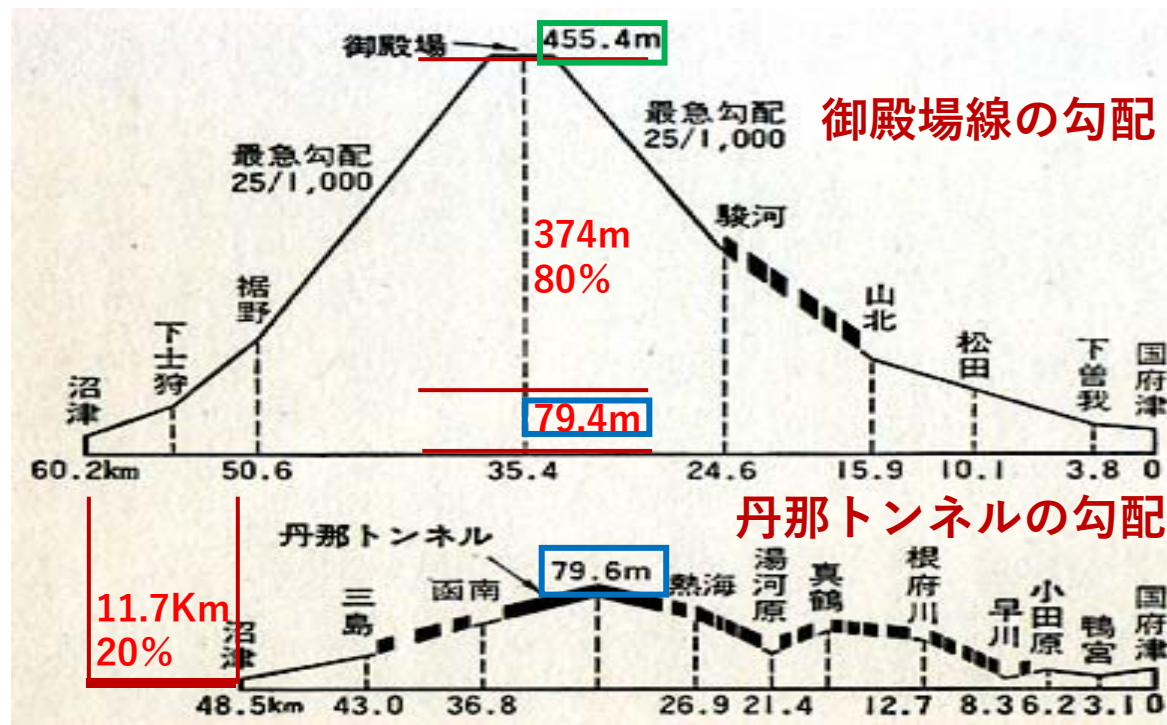
- 東海道本線は、国府津から御殿場線で沼津につながっていた
- 小田原・熱海では、豆相人車鉄道→軽便鉄道により終点熱海つながっていた。
- 大正12年9月の関東大震災により壊滅、全廃。
- 大正14年3月 国府津から熱海をつなぐ熱海線開通



熱海駅開業は、軽便鉄道の全廃からまでの1年半後に完成。開業は多くの人々に喜ばれた。



丹那トンネル決定・工事



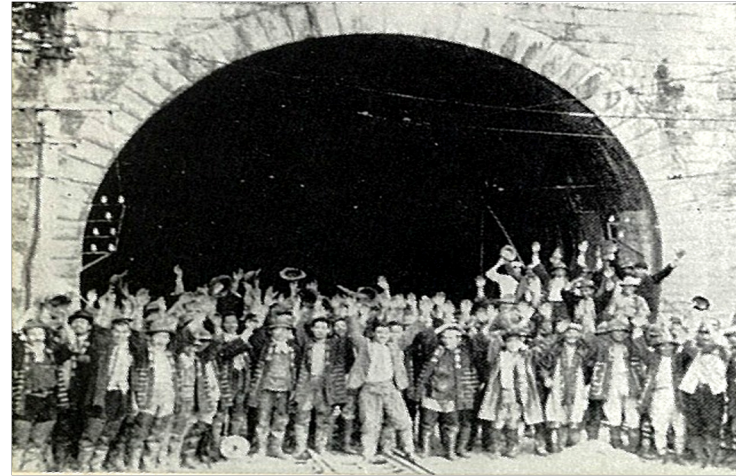
- 御殿場線を東海道本線としていたが、勾配がきつく輸送に大きな障害をもっていた。
- 熱海線は勾配は80%減となり距離も20%強減となった
- そうしたことから、熱海から函南間を開通して通す案が採用された
- 大正7年着工し昭和9年完工した
- 初工期は7年であったが、多量の湧水から16年となった
- 大事故は4回、日本の鉄道トンネル工事史上、最大の難工事であった。

難工事

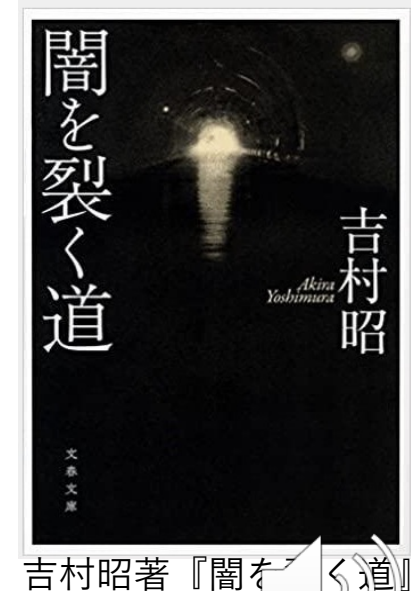
工期：7年 → 16年
 予算：700→2500万円
 - 当時予算 -
 犠牲者：67名
 - 水、落盤犠牲者 -
 延べ人数：250万人
 長さ：7804m



丹那トンネル開通 殉職碑 昭和9年12月



丹那トンネル殉職碑



丹那トンネルの2つの恩恵

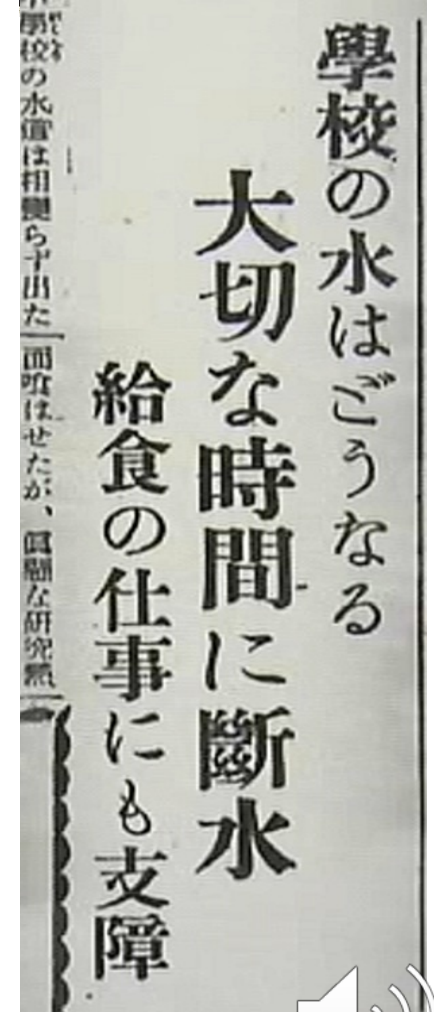
難工事をまねいた大量の丹那湧水

第一恩恵
多くの
観光客

急激な
水不足

第二恩恵
大量な
生活水

線名	乗客数	降客数	和暦
軽便鉄道 小田原～熱海	1.7万人	1.9万人	大正12年調べ
熱海線 東京～熱海	28.7万人	37.1万人	大正14年調べ
東海道本線 丹那トンネル開通	191万人	162万人	昭和10年調べ



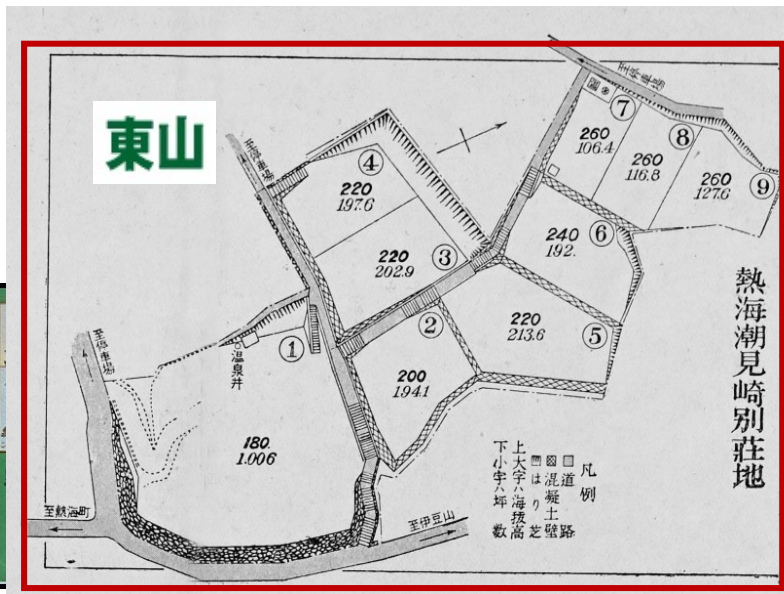
東山・桃山の土地分譲（温泉付き）開発

- 東山の地は以上のような交通の大きな転換期を背景に生まれてきました。
- 大正10年 東京に本拠をおく竹内同族会社が桃山・東山（潮見崎）の土地分譲を開始
これは開通7年後を予定していた丹那トンネル工事着工の3年後
- 開発と同時並行して、来宮神社の位置する西山、温泉地区の間の野中地区（現咲見町）、水口付近、伊豆山地区なども開発が盛んになる

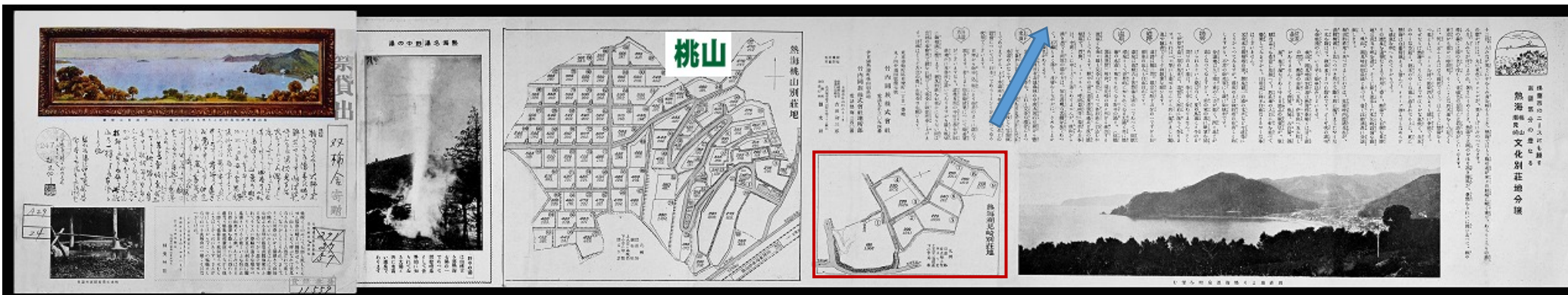


熱海 桃山潮見崎 文化別荘地分譲 案内

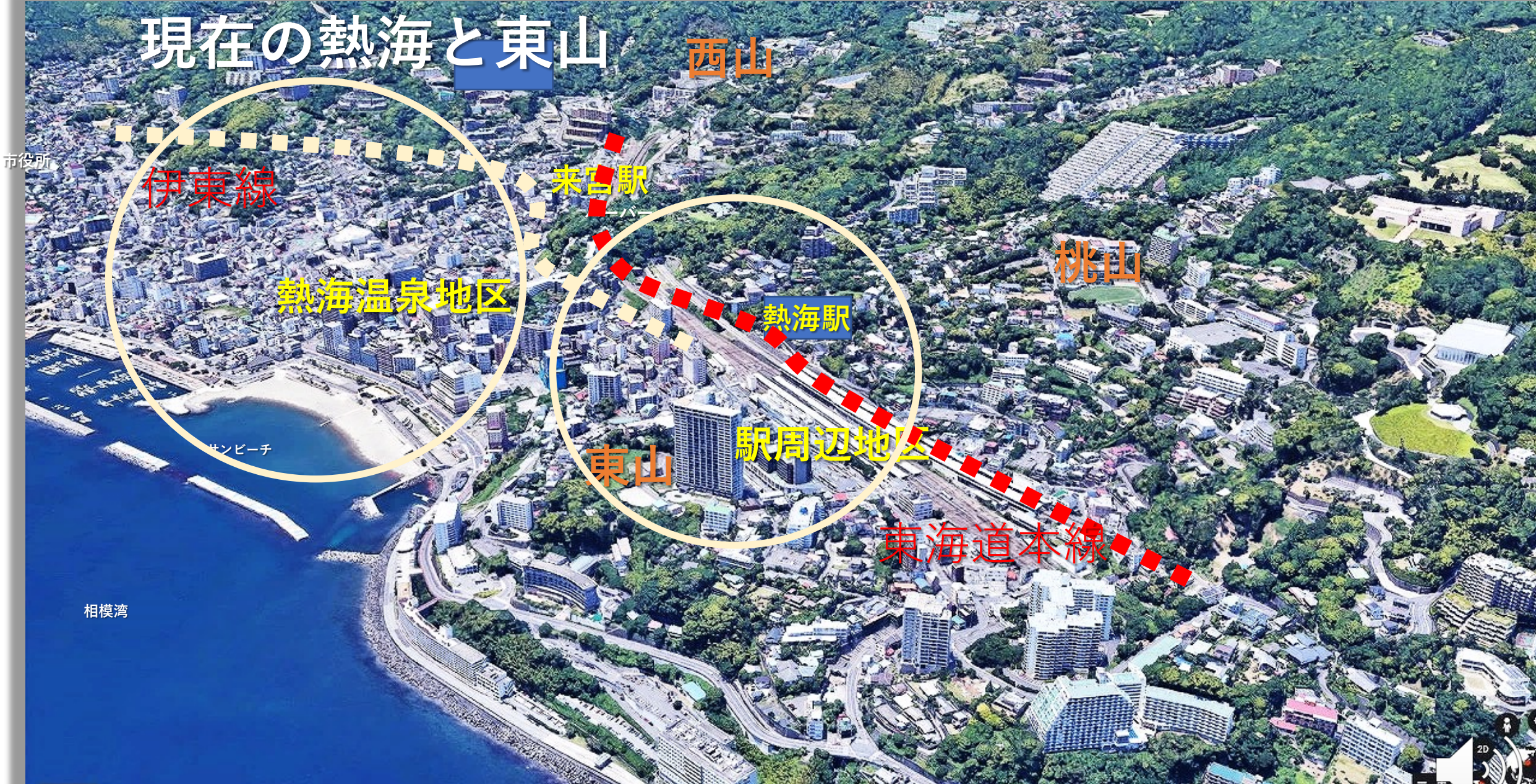
竹内同族会社による（大正14年）
 「熱海潮見崎・桃山文化別荘地分譲」パンフレット。
 両面刷りで、坪内逍遥・双柿舎からの図書館への寄贈品。奇麗なかたちで残っている。
 NHK 「ブラタモリ」にも説明用で登場



佛蘭西のニスにも勝り
 南國氣分の豊なる
熱海潮見崎山文化別荘地分譲



現在の熱海と東山



東山全景 東山トリオ（旧日向別邸・東山荘・海峯楼）

現在の東山全景

- 標高約90m
- 駅約20m高い場所。
- 135号線、駅前道路に囲まれた丘
- 頂きに3つの施設が隣接し合い「東山トリオ」を構成
- 他昭和の建物が複数存在し、昭和の浪漫をかもしています
- 高層マンションはかつての学校跡地につくられたもの



東山トリオ 時を繋ぎ、時を超えて佇む

東山の小さな丘の上には、三つの個性的な施設が肩を並べて建っています。またその周辺にも熱海の昭和レトロが・・・。

次回は東山が生み育んできた個性豊かな建物を中心に紐解きます



ATAMI海峯楼

1997・H7
設計：隈研吾

建築家つながり

旧日向家熱海別邸

1936・S9
設計：ブルーノ・タウト
国重要文化財

時代つながり

東山荘

1933・S8
岡田茂吉
国登録有形文化財

ここ熱海の東山(春日町)は、「産み・保持・進化」させるチカラをもった不思議な地域！ 熱海ブルーノ・タウト連盟

令和3年度

オンライン講座
第2回
東山文化・I

2021
5月
No.02

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海



No.02 END

